

2001年5月9日

東京外国為替市場委員会第43回会合議事録

開催日時	2001年4月24日13:00～15:30
場 所	日本銀行本店新館9階大会議室
議 長	住田 知正(東京三菱銀行)
副 議 長	大倉 孝 (バークレイズ銀行)
副 議 長	花井 健 (日本興業銀行)
書 記	西川 広親(日本銀行)
参加委員数	16名(別紙)

1. 委員の選任の件

住田議長(東京三菱銀行)より、下記の委員(敬称略、五十音順)の任期が満了したこと、また、各委員が再任を希望して立候補したことが報告されました。

大倉 孝	(バークレイズ銀行)
花井 健	(日本興業銀行)
酒匂 隆雄	(UBS銀行)
中島 尚彦	(スタンダードチャータード銀行)

各立候補者について、提出書類に基づく審査、立候補者の所信表明を経て、委員による投票が行われ、4名全員が選任されました。

続いて、住田議長より、大倉副議長及び西川書記(日本銀行)の副議長、書記としての各任期が次回委員会前に到来するため、本日、両職について選任を行いたい旨報告されました。立候補者を求めたところ、大倉副議長、西川書記から再任の意思が表明され、各委員からの賛同を得て、何れについても再任が決定されました。

2. 各小委員会からの報告

各小委員会より、現在の活動状況について報告がなされました。

(1)教育小委員会

今井小委員長(三和銀行)から、今後の活動方針について以下の通り報告がありました。

- ① フォレックスセミナーについては、本年1月15日に開催した小規模のセミナーが好評だったこともあり、従来のような大規模のセミナーではなく、今後とも50人程度の規模で、年に2、3回程度開催することとしたい。次回は、夏頃に開催できるよう準備を行っていく方針。
- ② ACIが実施している diploma(資格テスト)が、今後本邦においても注目されるようになればフォレックス・セミナーをその準備講座と位置づけることも考えられる。
—— ACIの diploma について委員からは、「近年、各行の外為ディーラーの育成方針が

変わってきつつあり、万遍なく色々な商品を経験することが少なくなっている中、オプションや、金利等の外為以外の知識も求められる同テストに向けてディーラーが自主的に学習していくことは好ましい。そうした動きを支援していくことには意義がある。」といった意見が聞かれました。

(2)法律小委員会

金上小委員長(三菱信託銀行)より、以下の通り報告がありました。

- ① “98 Definitions”の日本語解説資料を、引続き作成中である。現在は、事務局で最終的な取り纏めを行っている段階であるが、かなり膨大な作業であり、取り進め方について今後検討していきたい。
- ② 今後とも、本委員会の議論を通じて明らかにされる法律的なテーマについて適宜、プロジェクトチームを組むような体制で取り組んでいきたい。

(3)Eコマース小委員会

野手小委員長(三井住友銀行)より、以下の通り報告がありました。

- ① Eコマースというテーマがカバーしている範囲は広いため、切り口を絞り込んで検討していく。その際には、ニューヨーク外国為替委員会(以下、NY外為委)、ロンドン外国為替合同委員会などにおける議論も参考にしたい。
- ② 手始めとして、銀行による対顧客取引の電子化の動きについて現状を把握することが考えられる。複数行が共同開発しているものと、単独で行っているものが存在しているが、各行で開発、運用上の問題点等があれば、報告してもらいたい。

(4)T+1小委員会

小林小委員長(ステートストリート銀行)より、以下の通り報告がありました。

- ① 証券取引のT+1化が達成された場合に外為決済の観点から対応を要する事項を中心に検討を行っていく方針。
- ② 特に、時差の問題が大きい米市場との間で生じ得る問題については、米SIA(Securities Industry Association)がNY外為委と協力して設置した小委員会との連絡を密にして検討していきたい。
- ③ 本邦の証券市場改革について議論している日本証券業協会においても、証券取引決済のT+1化との絡みで外為決済への影響についての問題意識を有しているようなので、コンタクトをとりたい。

(5)NDF・CFD小委員会

市川小委員長(富士銀行)より、以下の通り報告がありました。

- ① CLSの稼働を10月に控えて、それを通じたりスク削減に大きな期待が集まっており、ロンドンにおけるCFDに関する議論はさして進展していない模様。しかし、いつ動き始めても迅速に対応できるよう、動き出した時にやるべきことを、予めまとめておくことが適当と考えている。やるべきことの洗い出しに委員の方々もご協力をお願いしたい。
- ② NDF市場については、韓国ウォン、台湾ドルを中心にシンガポール市場、香港市場では

活発な取引が行われている模様である。東京市場で取引高が伸びない理由としては、(a)リーガルサポートが無いことが不安視されている、(b)東京でのニーズがそれほど高くない、(c)海外市場を含めて考えても市場流動性が高いとはいえない、(d)アジア危機後、実需取引ではドル建てでの取引が増加している、といったことが考えられる。

- ③ 足許では、いくつかのアジア通貨について当局がフォワード取引の規制を強化する動きも出ているほか、本邦企業の潜在的なニーズは高いと思われ、引き続き東京でのNDF取引に関する動きを見守り、それに付随する諸問題につき検討していくことで合意した。この問題について、小委員会委員以外からも幅広い意見を求めたい。

(6) Model Code 小委員会

Model Code 小委員会の小林委員より、Model Code の第 4 章に関し、東京 Code of Conduct (Orange Book) との相違点や Orange Book 改訂の要否等に関する小委員会での検討結果について概要以下のような報告があり、いくつかの点については本委員会でも改めて議論を行う必要があることが指摘されました。

- ① Model Code では、取引に関する disputes には管理者が取り組むべきであることを強調しているが(第4章 1 条)、この旨を Orange Book に記載すべきか。また、disputes が行き詰まった場合に、Model Code ではCFP(注)の活用を提言している。CFPの活動を啓蒙する観点からも、Orange Book に同内容を記載すべきではないか。
- ② 差損益について、Orange Book では基本的に22条でディーラーとブローカーとの間のスタッフィングについて記述しているのみであるが、Model Code と同様取引から発生する差損益全般を対象とするよう改訂すべきではないか。
- ③ Orange Book にも Model Code 同様、Code そのものの遵守に関して記述した条項を加えるべきではないか。また、全体的に Orange Book にはブローカーの記載が多くなされているが、次回の改訂においては電子ブローキングの発展にも対応すべきではないか。

(注) CFP (Committee for Professionalism) は ACI の諮問機関であり、ガイドラインの策定や提案等のほか、一定の条件の下で市場参加者間の紛争解決のための助言等も行っている。

3. シンガポール外国為替市場委員会

5 月 24 日に開催するシンガポール、香港、東京の3市場合同委員会について、居村オブザーバーより、議題として①CLS、②NDF、③公式市場開始時間が提案されているとの報告がありました。当委員会からは、加藤委員(野村証券)、酒匂委員、中島委員、西川書記の 4 委員に加え、川添オブザーバー(日本興業銀行)、安田オブザーバー(東京三菱銀行)が参加することとなりました。

4. CLS の件

居村オブザーバー(東京三菱銀行)より、CLS (Continuous Linked Settlement) Bank を通じた外為決済が今年 10 月末から稼働予定であること、また同決済手法は外為決済リスクを削減するものであり、市場で普及する可能性も高いことが報告されました。これに対し、多くの委員から、外為

市場の資金フローにも影響が出るとの認識が示されました。具体的には、フロントオフィスの決済口座が一つになる点や、CLS参加行の中でも事務体制の整った特定行に決済業務が集中する可能性などが指摘されたほか、「参加コストの高さを嫌気して参加しない銀行が多く出て、決済リスクの差異から市場が二分化したり、その結果裁定が働きにくくなるといった現象が生じ得る」との声も聞かれました。

CLS導入が外為市場にどのように影響するかについては、市場参加者の関心も高く、シンガポールでの3市場合同委員会での議題案にも含まれることから、有識者を招き5月16日(水)に本委員会の臨時会合を開催することとなりました。

5. その他

ブローカー取引におけるネームスイッチの件

酒匂委員より、ある市場参加者から以下の要請があった旨報告がありました。

- ・ 当行では、ボイスブローカーを通じた取引で、クレジットラインが適合しない等の理由で取引が実行できないような場合に、ネームスイッチを引き受けることが多い。しかし、こうした取引はリスクも高いため、今般、廃止の方向で見直しを行っている。こうした取引の引受手はかなり少なくなっているようだが、ボイスブローカー経由取引における留意事項を再確認できないか。

—— 本件については、マネー・ブローカーズ・アソシエーションとトウキョウフレックス上田ハーローに上記ネームスイッチでの取引の実態の確認を行ってもらおうこととなりました。

以 上

東京外国為替市場委員会委員名簿(4月24日現在)

<委員>

議長	○住田 知正	(東京三菱銀行)
副議長	○花井 健	(日本興業銀行)
副議長	○大倉 孝	(ハークレイス銀行)
書記	○西川 広親	(日本銀行)
運営小委員長	○加藤 博光	(野村証券)
広報小委員長	渡辺 秀典	(第一勧業銀行)
教育小委員長	○今井 雅人	(三和銀行)
法律問題小委員長	○金上 孝	(三菱信託銀行)
Eコマース小委員長	○野手 弘一	(三井住友銀行)
T+1小委員長	○小林 和成	(ステート・ストリート銀行)
NDF・CFD 小委員長	○市川 亨	(富士銀行)
Model Code 小委員長	○中島 尚彦	(スタンダードチャータード銀行)
	○酒匂 隆雄	(UBS 銀行)
	石川 栄一	(イービーエス・ディーリング・リソース・ジャパン)
	○神田 紀昭	(ロイター・ジャパン)
	○伊藤 一雄	(トウキョウフォレックス上田ハーロー)
	○川鍋 修司	(チェースマンハッタン銀行)
	○河野 大介	(シティバンク)

<オブザーバー>

	○野口 嘉彦	(マネー・ブローカーズ・アソシエーション)
	○川添 敬	(日本銀行)
	○居村 元	(東京三菱銀行)
	○川添 豊	(日本興業銀行)

(注) 敬称略(順不同)。○は今回出席。